

子供と保護者を支える通級指導教室

浜松市立可美小学校 校長 大橋 均

今年の梅雨明けは平年より10日以上早く、ここ数日はまさに酷暑と呼ぶべき暑さが続いています。さて、酷暑の7月下旬からさかのぼること1か月あまり前、6月18日(月)から6月22日(金)まで、本年度の可美小学校「通級指導教室参観ウィーク」が行われました。

「通級指導教室参観ウィーク」は、主に校内の先生方に通級指導教室での指導の様子を見てもらい、通級指導に関する理解を深め、子供の指導に役立ててもらいたいという願いから計画されています。1週間の各教室での指導の時間割が配付され、参観が可能です。

私は今年の参観ウィークで、言葉の発達に課題がある児童(Aさん)の指導と発音に困っている幼児(Bさん)の指導を参観しました。Aさんは本校の2年生の児童です。「言葉遊び」や「お話づくり」に取り組むAさんの表情はとても柔らかく、子供らしい笑顔がたくさん見られました。また、Bさんの指導では、あたたかい雰囲気の中で、発音に困り感を持ちながらもBさんが指導者の問い掛けに素直に反応してたくさん話している様子に感動しました。それぞれ、指導者の丁寧な対応に基づく適切な関係づくりのおかげと感じました。

通級指導教室に通う子供は様々な困り感を持っています。そして、子供と同様に(もしくは子供以上に)その保護者の方々も困り感を抱えています。困り感からくるネガティブな感情に振り回されてしまうことも無いとは言えません。ネガティブな感情から自分を切り離すために有効な方法は自身がその思いの淵を「語る」ことだと、名越康文さんの本に紹介されていました。

「語る」とときにはふたつの技術が発生するのだそうです。ひとつはより詳しく、かつ理解しやすいように、丁寧に語ろうと配慮することです。もうひとつは、語る相手が自分の信頼と尊敬に値する人であれば、自分の語る内容ができ得る限り、公平な立場で語られたもの(独りよがりでないもの)であるよう努力することです。そうすることで、自分をより広いところから客観視するという経験が生じ、自分の心に落ち着きを取り戻すことができるのだそうです。

通級指導教室担当者には、丁寧な対応と適切な支援により、保護者の方々の信頼と尊敬を得て、保護者の方々の心の安定を支えています。

本当に感謝しています。



<可美小のシンボルツリー「キクモモ」>

教室紹介



可美小学校の校舎の南には諏訪神社があり、神社を囲む何本もの松の木が遠州灘からの潮風を受けて揺れています。中庭には、本校のシンボルで校章のデザインにもなっているはなももの木もあります。この自然にちなんで通級指導教室には「おひさま」「あおなみ」「まつかぜ」「はなもも」という名前がついています。教室は、南校舎東側の3階にあります。明るい日差しが入り、廊下や壁はクリーム色で温かく穏やかな雰囲気です。

通ってくる子ども達の特性や実態に合わせた指導を日々工夫しています。子ども達が安心して、笑顔で生活、学習できることを目指しています。

児童・LD等 2教室

「まつかぜ1」

「まつかぜ2」



幼児・言語 2教室

「おひさま」

「あおなみ」

児童・言語 2教室

「はなもも1」

「はなもも2」

～静かで安らぐ集中できる室内環境～



6教室とも、パステルグリーンの防音壁にじゅうたんが敷き詰められ、冷暖房完備です。開放感のある大きな広い窓には、遮光、集中のための大きなカーテンもついています。また、壁掛けホワイトボード、ポータブルホワイトボードや、視覚的に時間把握できるタイムタイマーも各教室にあります。落ち着く室内環境のもと、指導

が行われています。

～教材室・プレイルーム～



教材室には知育玩具、ボードゲーム類が豊富にストックされています。また、広いプレイルームもあってプレイセラピーや運動サーキットとしても利用しています。



教材紹介・言語

○絵カード

物の名前を覚える、発音練習をする、季節の行事や植物・生き物などを知る・・・等、様々なカードを対象児の実態や活動・目的等によって使い分けています。



ことば絵カード100



構音カード



きせつカード

○手作り教材

市販の教材だけでなく、教材を手作りしています。「お話づくり」の教材では、いつ・どこで・だれが・なにを・どうした、の5種類のカードをアトランダムに選択して短文つくる偶発性のあるゲームで、基本的な話型と助詞の使い方の定着を図ることができます。「サイコロで歌!」は、口の体操や発音練習をするときに使います。単調な練習も、このサイコロを使うことで喜んで活動できます。「うさぎうがいカード」は、カ・ガ行音の練習をするときに使います。子音に母音を付けてカ・ガ行音の音を作っていくときの視覚支援に使っています。



おはなしづくり



サイコロで歌!



うさぎうがいカード

○一つの教材をいろいろな使い方で

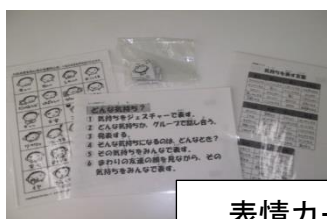
木製のネコ型のピースに文字が一つずつ書かれているので、発音指導に使ったり、言葉集めに使ったりしています。また、立てて並べてドミノをすることで、手指の巧緻性を高めることもできます。



教材紹介・LD等

○ソーシャルスキルトレーニング

ソーシャルスキルトレーニングが必要な子には、「表情カード」や「SSTワークシート」を使っています。「表情カード」は、相手の表情を見て気持ちを考える活動に使います。パズルにして表情と気持ちを一致させたり、表情から気持ちを当てるジェスチャーゲームをしたりしています。「SSTワークシート」は、学校生活や日常生活で起こりうる場面のストーリーを読んで、どんな行動をとったらよいか考える等の活動で使っています。



表情カード



SSTワークシー

○書字指導

漢字を覚える指導では、多感覚へのアプローチを心掛けています。視覚、聴覚、触覚などの感覚を複数用いる学習方法は、情報の処理に偏りのあるLDの子どもたちにとって有効だと思います。イラスト漢字カードで視覚へ、漢字唱え歌で聴覚へ、指書きで触覚への刺激をしています。



見て、唱えて、指書き

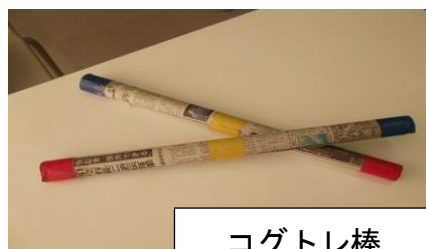
○認知特性に合わせて

一人一人の特性に合った指導をするためには、実態をきちんととらえるアセスメントが大切です。「ビジョン・アセスメント WAVES」は、視知覚、目と手の協応、眼球運動という見る力に関するスキルを、10種類の検査でアセスメントして、弱い部分を見つけます。見つけた弱い部分をドリルでトレーニングして、改善を目指します。「漢字覚えるカード」は、聞いて覚える方法を活かして、呪文のように唱えて楽しく覚えていきます。「コグトレ棒」は、認知機能トレーニングとして、指導の導入で体ほぐしの活動でやっています。ストレッチ体操に使ったり、回転させたりします。



漢字覚えるカード

ビジョン・アセスメント WAV



コグトレ棒